

中露国境の町「琿春」

2011.07.17

香港 花木

キリル文字の看板が並ぶ光景。この町はいったいどこだろうか。



この町は、中国吉林省延边朝鮮族自治州の端にある琿春市である。琿春市はロシア沿海州に隣接しており、毎年琿春市を訪れるロシア人は10万人に及ぶという。琿春市でも買い物はじめ歯医者やマッサージ等サービス業のお客としてロシア人を重視し、商店の看板だ

けでなく道路標識や更には警察の「110番」通報にもロシア語で対応する等、ロシア人にとって過ごしやすい環境を整えている。

琿春市は吉林省の一番奥、いわば「行き止まり」の地だが、その「行き止まり」の先にはロシア国境があり、その先わずか15km先には日本海が広がっている。今、琿春市が力を入れているのは、ロシア沿海州ザルビノ市の港湾を整備して、「行き止まり」の町から一気に「国際港湾に近い町」に変身することである。同市関係者によれば計画は大詰めで、早ければ来月から週1回、3千トンクラスのコンテナ船を韓国プサンとの間で運行する計画という。



← 琿春市の位置関係 (同市ホームページ)

戦前、東京と満州国の都「新京（長春）」を最短距離で結んだのは大連経由でなく、新潟―羅津航路経由だった。羅津には満鉄が巨額の投資を行い埠頭を整備し、羅津―新京間には急行列車も運行されたという。戦後、羅津が北朝鮮になってからこのルートは実質的に消失してしまったが、中国経済の成長でその隣のロシア・ザルビノ経由に形を変える形でこのルートが再生しようとしているのである。計画にはまだまだ課題も多いようだが、琿春が国際都市となり、その街頭に「ロシア人」だけでなく「韓国人」や「日本人」も目立つようになるのもそう遠い将来のことではないかもしれない。



↑ 珲春市中心のロータリー。

(以上)